

令和4年度 学校の自己評価の結果と改善策

昭和町立押原小学校

教職員アンケート結果をもとにしながら、保護者アンケート、児童アンケートの結果もふまえて、学校の自己評価を行った。

教職員アンケートについては、評価は、7月（前期）、12月（後期）の2回行っている。保護者アンケートと児童アンケートは年1回（12月）に行っている。どのアンケートも共に、各項目における「1 そう思う」、「2 どちらかというと思う」、「3 どちらかというと思わない」、「4 そう思わない」の各選択肢のポイント（%）を算出している。

1 全体評価

・保護者アンケート及び児童アンケートのすべての項目において、肯定的評価〔1（そう思う）と2（どちらかというと思う）〕が9割を超えており、本校の今年度の教育活動についておおむね理解が得られたと考える。

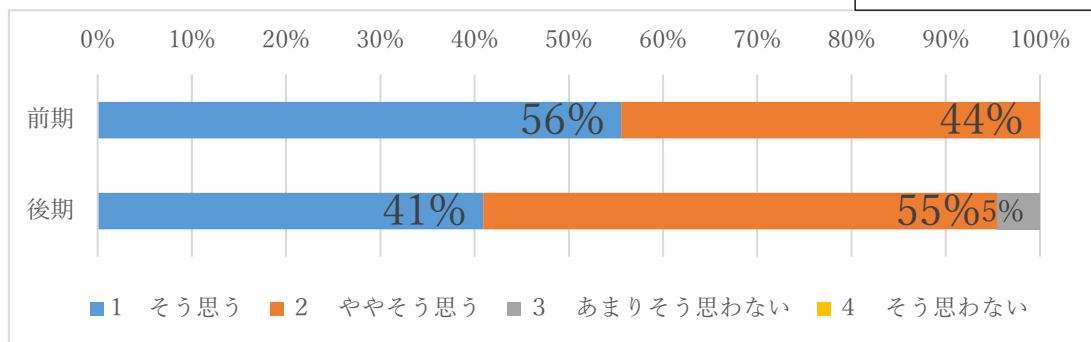
2 項目ごとの評価結果

【学校教育目標・学校経営について】

教職員後期の評価を見ると、行事の多かった2学期ではあるが、それぞれの職員が学校教育目標及び、学年・学級経営の方針に基づき、充実した教育活動が行われるように努力してきたと考えられる。一方で、評価が下がっている項目が多い。学校生活での課題が明らかになり、もっと改善できるという先生方の意識の表れだと捉えたい。前期のアンケートでも「PDCAサイクルを活かした教育活動」については課題であったが、「C」（チェック）を引き続き丁寧に行い、それを「A」（アクション）改善に生かしていかなければならない。OJTを活かして若手の育成を図りつつ、学校として課題を全体でしっかり確認し、次年度へ向けての改善を図りたい。

③ あなたは、PDCAサイクルを生かした教育活動を行っている。

教職員アンケートより



【今年度の重点目標について】

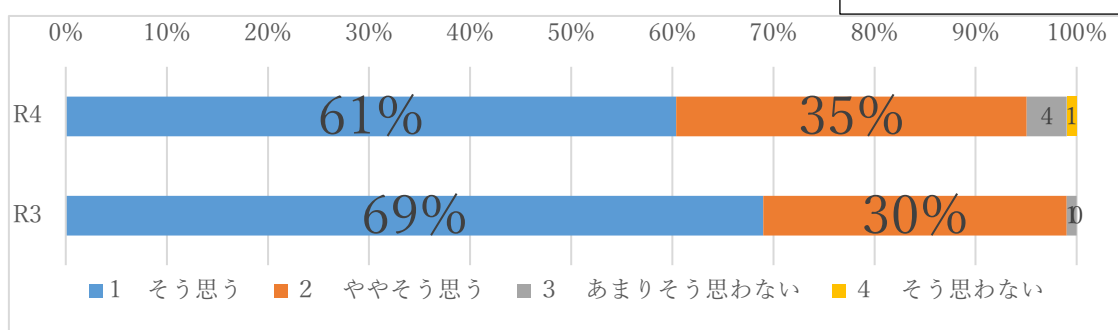
(1) 安心・安全の保障

○生徒指導について

この項における 3 つのアンケートは保護者・児童ともに肯定的評価が、90%以上となっているが、保護者については「そう思う」の回答が60%台とやや低い傾向である。児童アンケート①②からは児童が安心して生活できていることが伺える。しかし「そう思わない」と答えている児童がいることから、個々の児童に目を向け、児童が安心して楽しい学校生活を送れるように、職員が一丸となって努力しなければならない。

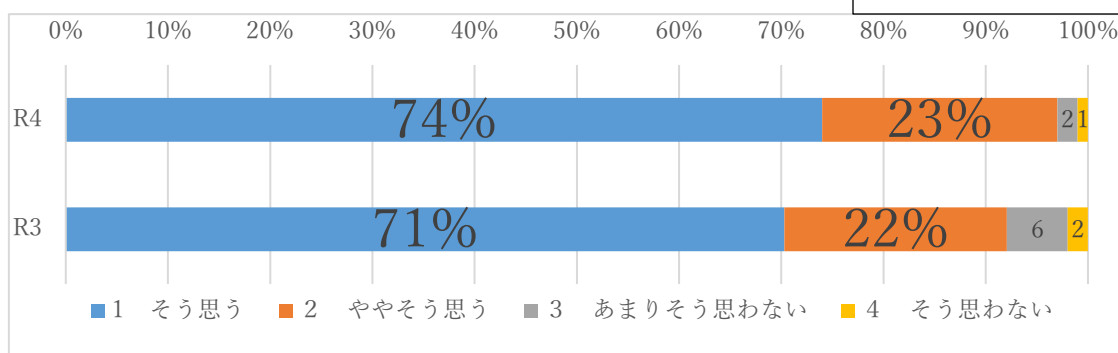
① 児童は、生き生きと学校生活を送っている。

保護者アンケートより

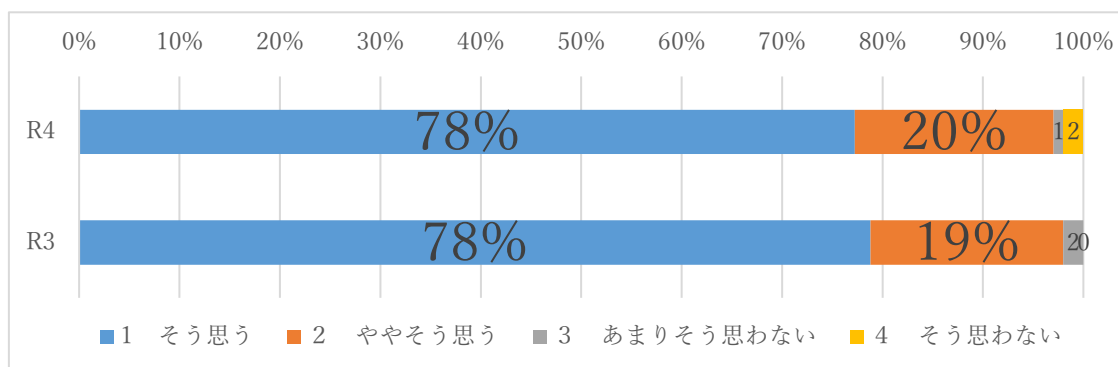


① あなたは楽しく学校生活を送っている。

児童アンケートより



② 先生たちは、みんなのことをわかってきて、相談や悩みを聞いてくれる。

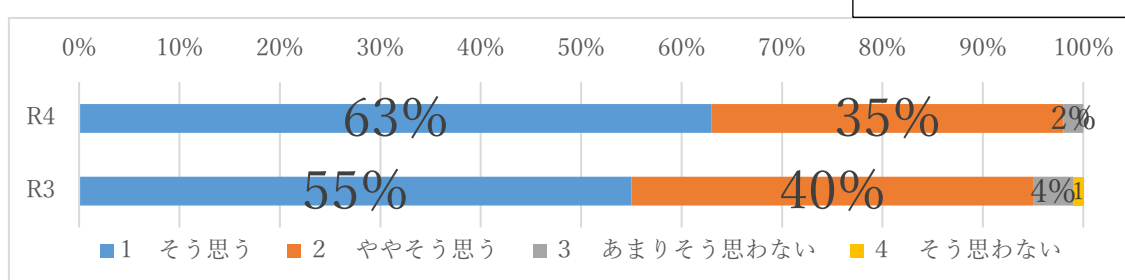


○安全指導について

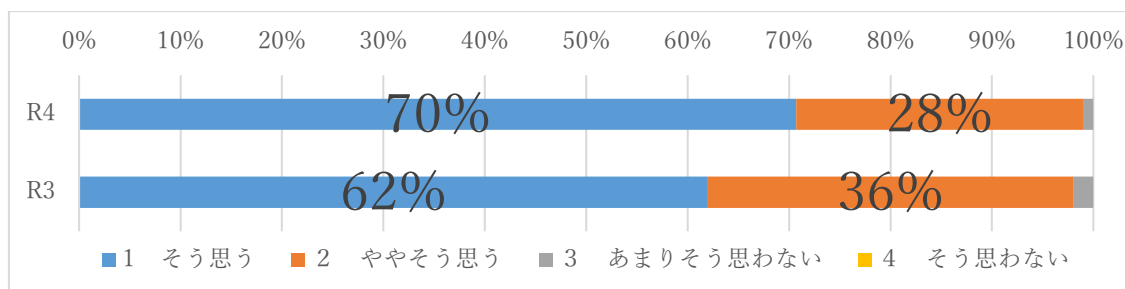
教職員・保護者・児童アンケートにおいて肯定的評価となっている。保護者アンケートでは、「⑨児童の安全な登下校のために安全指導を行っている」、「⑩災害や犯罪発生を想定した対応に取り組んでいる」が、昨年度に比べ評価が高くなっている。「⑪新型コロナウイルス感染症への対応」についても昨年に引き続き、評価は高いが、with コロナに向けて、保護者の考えも多様化しており、学校の安心・安全のために理解を得ながら、対応を進めていく必要を感じる。朝の健康チェックに始まり、換気や手指の消毒、マスクの適切な着用など必要な対策への取組と共に、緩和された中での学校生活についても考えていく必要がある。

⑨学校は、児童の安全な登下校のために安全指導を行っている。

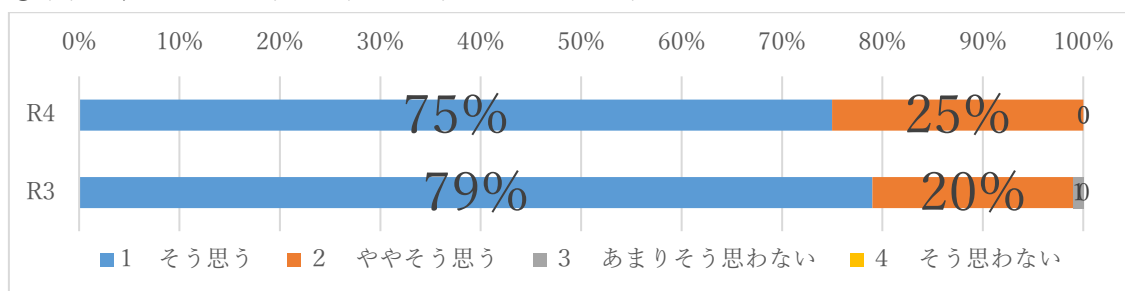
保護者アンケートより



⑩学校は、災害や犯罪発生を想定した対応に取り組んでいる。

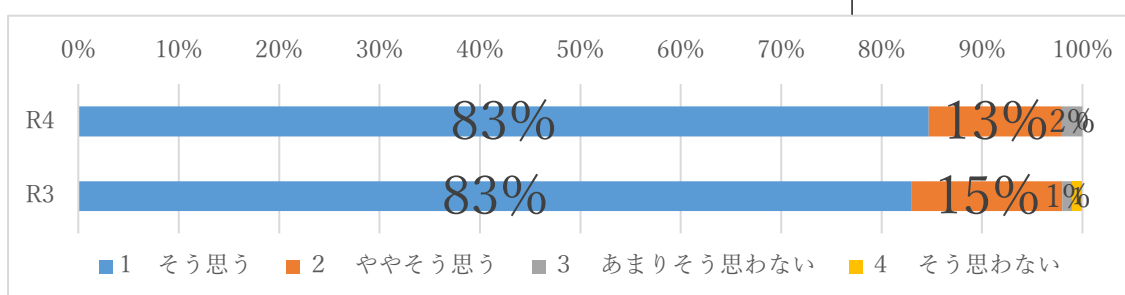


⑪学校は、コロナ感染症予防の対策を適切に取り組んでいる。

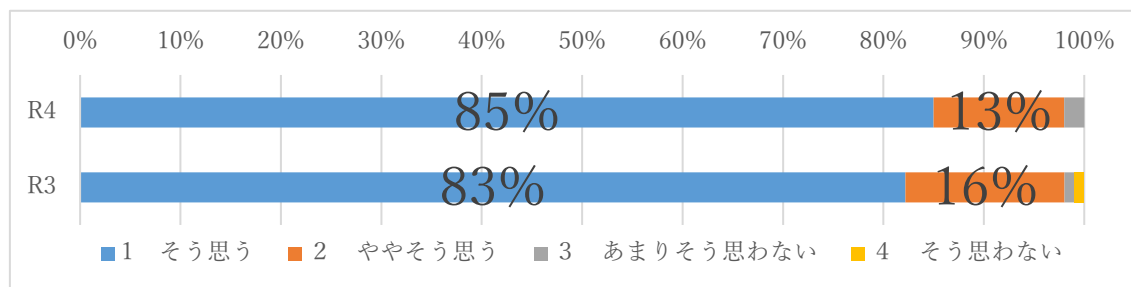


⑨先生たちは、登校班での話や帰るときの注意をしてくれる。

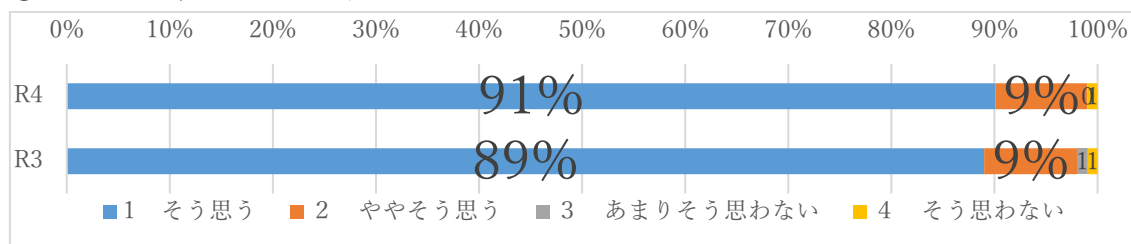
児童アンケートより



⑩先生たちは、避難訓練や防犯訓練など危険にそなえての活動をしてくれる。



⑪先生たちは、コロナの予防をしてくれる。



登下校については、保護者や地域からの関心が高い項目の一つである。本校においても、日頃の学級指導や集団下校時での指導を行い、課題があった登校班においては、朝現地に赴き登校指導等、適宜取り組んできた。また、旗振り当番の保護者や、地域の方からの情報提供をもとに登校班への指導も行っている。今後も家庭や地域とも連携して取り組みたい。

一方で、同内容の教職員アンケートは、前期に比べ後期は、「そう思う」のポイントが上がっている。登下校における諸課題への対応や、避難訓練は地震想定、火災想定だけでなく、垂直避難（動画視聴）や予告なしの避難訓練を実施してきたが、それぞれに実施する中で課題があったことが厳しい評価につながったと考えられる。

(2) 学力の保障

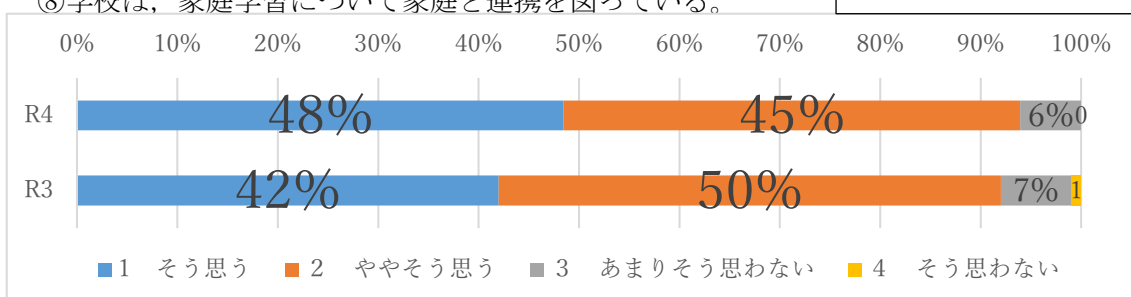
教職員アンケートでは、「学級集団づくり」「基礎・基本の定着」の2項目での評価は高く、学級集団づくりをもとに授業の改善工夫に取り組んだ日々の努力が表れている。

保護者アンケート、児童アンケートもおおむね肯定的な支持を得ている。

保護者・児童のアンケートでは、⑧家庭学習についての項目が、昨年比べて評価が高くなっている。今年度2学期より、家庭学習の手引きを改訂し、取り組みを再スタートしたことが評価につながったと考える。しかし、保護者の意見をみると家庭学習の取組について不安を抱いている御家庭もあるので、取り組みについて周知を図るとともに、改善を図っていかなくてはならない。今年度実施した中での改善点を次年度に生かし、定着を図っていきたい。

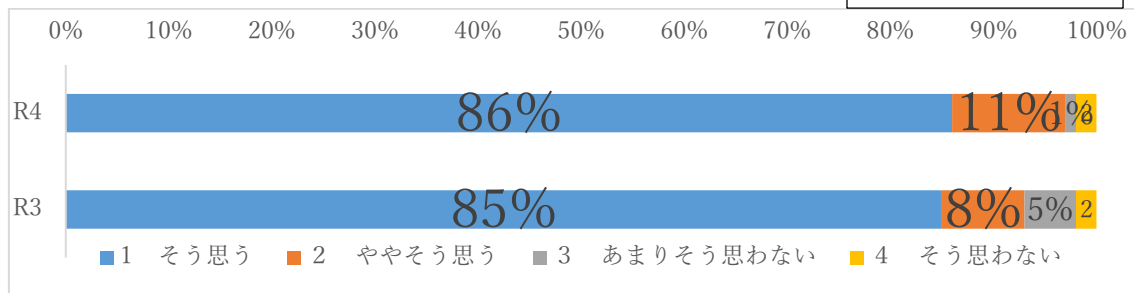
⑧学校は、家庭学習について家庭と連携を図っている。

保護者アンケートより



⑧先生たちは、おうちでの勉強（宿題や自学）を見てくれる。

児童アンケートより

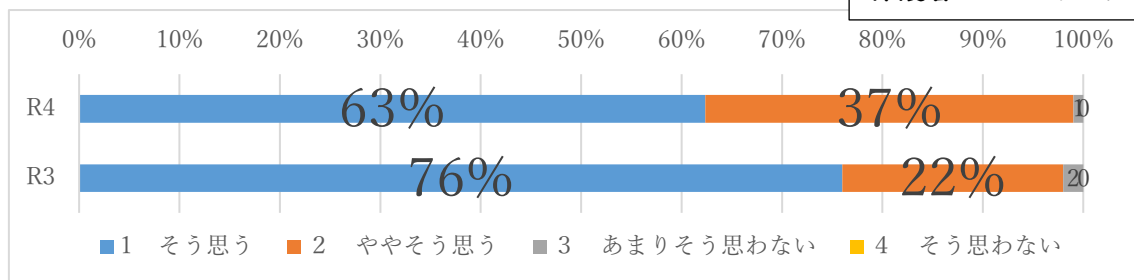


(3) 信頼の醸成

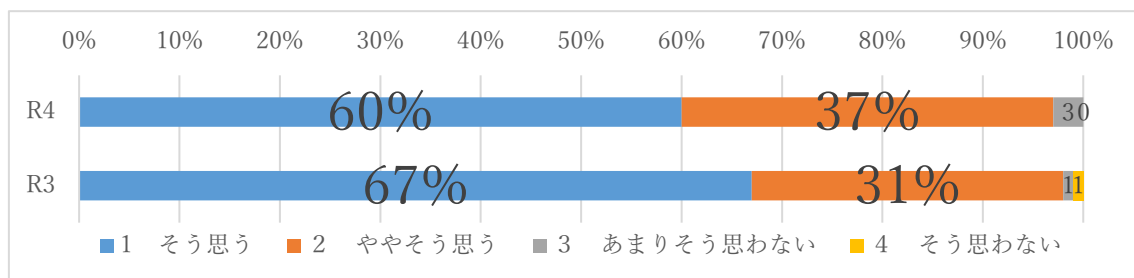
コロナ禍において、学校行事が思うようにできない中、学校の様子を家庭にどのように伝えていくか、保護者の要望に応えられるよう、信頼される学校を目指した取組が求められている。

⑬ 家庭訪問、個別懇談、地区別授業参観などは、教職員と保護者が相互に理解を深めたり、課題を共有したりする機会になっている。

保護者アンケートより



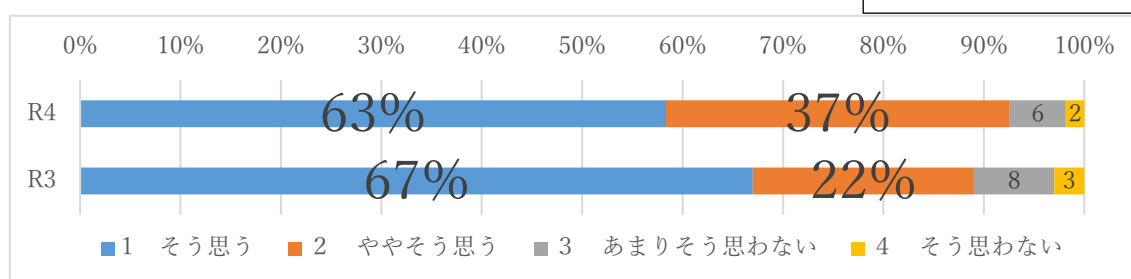
⑭ 学校は、保護者の意見や要望に対して適切に対応している。



保護者アンケートにおいて、昨年度と比較すると、⑬、⑭の項目では「そう思う」の回答がやや低くなっている。コロナ禍のため多くの制限はあったが、授業参観、運動会やふるさと探検などを実施することができた。また学年・学校だよりやホームページでも行事だけでなく、学校の考えや動きを知らせるように努めてきた。しかし、それらの取組について保護者の理解が十分であったか、方法が適切であったか反省しなければならない。

児童アンケートの結果では、⑬「家庭訪問や個別懇談が終わった後は、お家の人と学校のことについて話をしている」についての「そう思う」の回答が低くなっている。

- ⑬ あなたは、家庭訪問や個別懇談が終わった後は、お家の人と学校のことについて話をしている。



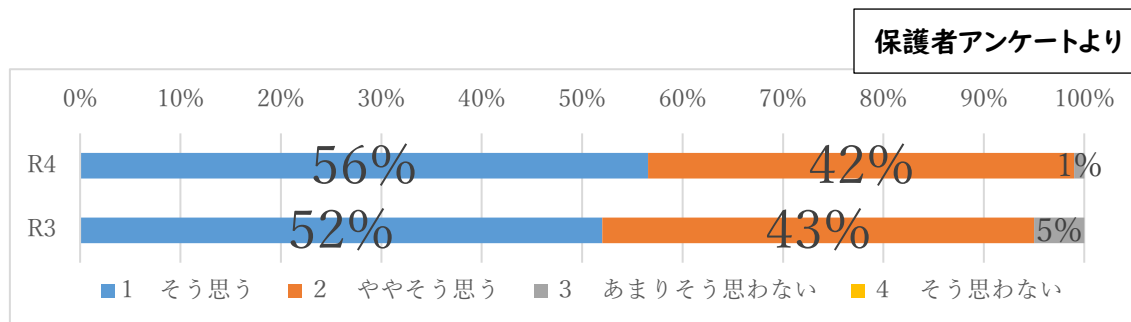
学校から、積極的に児童の良いところや頑張っているところを発信し、話題にしてもらえるように努めていく必要がある。児童が学校生活をとおして、自分自身について自信をもって生活したり、自己肯定感が高められたりするようにより一層意識を高める手立てを模索していきたい。

(4) 参加の促進

コミュニティ・スクールの取組に関しては、保護者アンケート⑮では、「どちらかというそう思わない」の回答率が昨年度に比べ下がっている。本年度も「CS 感謝の集い」は実施できず、日頃お世話になっている地域の皆様に感謝の手紙を送る取組になってしまったが、ありがたいことに地域の皆様から温かい内容の手紙のお返事をいただいた。

ここ3年間はコロナ禍のため制限があり、思うように活動できないこともあったが、今年度は「押原地区 ふるさと探検」など新たな取り組みも行った。

- ⑮ コミュニティ・スクールとして、学校地域との連携を深める取り組みが行われている。



来年5月には、感染症についても5類への移行が決まっている中、地域とともにある学校を目指して取組をすすめていくことができるのではと期待している。「学校運営協議会」と「地域学校協働活動」の連携を図りながら、コミュニティ・スクールとして10年目の節目を迎える令和5年度に向け、新たな取り組みを検討中である。